

ディランの声

text by Shinji Ishii

文いししんじ

その道の大家ふたりから、それ、なにかに書いといたほうがいいよ、と勧められ、そこでこの長い連載の場を借りて、書かせていただくことにします。

ボブ・ディランのことである。「ノーベル文学賞とったの、どう思う？ 文学やってるひとからして」。自分が文学やってるとはおもわれないけれど、ボブ・ディランには昔からたいへんお世話になっている。お醤油を借りたり足をもんでもらったり以上の、生きる根幹をなすくらい重要なことに関して。

そんなひととはきつとアメリカに、日本のぼくたちの想像をこえて数多くいる。

ボブ・ディランは、フォーク歌手でもロックンロールの歌い手でもなく、「アメリカの声」なのだ。ノーベル財団は、そこをみている。

ノーベル文学賞とは、ベストセラーを類出

せる力をもっているから。それが、アメリカでも中国でもロシアでも、国をこえて全球的に支持される理由だし、独特の薄さの要因でもある。どの国のことばにも翻訳できない、ある響きの「声」をもっているかどうか。大江健三郎はもっていた。川端康成も、もっていたとおもう。けれども、村上春樹にはそれがない。なくてぜんぜんかまわない。それを捨て去るところから村上作品ははじまっているのだ。

小学校の五年生で、はじめて小遣いのために「エルビー」を買いにいった。帝塚山三丁目のはうの、洋楽に詳しいレコード屋さんだった。いろいろ迷ったが、ちょっと前にはやっていた「学生街の喫茶店」なる歌のなかに出てくる「ボブ・ディラン」の、出たばかりの2枚組ライブ盤にしようとおもった。会場が武道館、ということが親近感が湧いたし、名前だけ知ってる代表曲がいっぱい聴けてお得だ。ビートルズもストーンズもあとまわしにしてまずディランのLPを買い、いそいそとうちに持って帰って、一枚目のA面に針を落

する大作家だからもらえるわけではない。世界レベルでメジャーだから、でもない。ひとの胸を打つ、最高の作品を書くから、というわけでもない。「ある国、または国に準ずる集団を、その作品でひとつに束ねることができるか。そんな声を、ひとりの作家がもっているか」。だから、小説家より、長く反政府活動をにつづけてきた詩人や、宗教国家のリーダーが受賞することが多い。

ディランはアメリカの声だった。六十年代に現れたとき、ニューヨークには「ビート文学」の嵐が吹き巻いていた。詩人アレン・ギンズバーグやジャック・ケルアックとディランは早くから親交をもち、互いの作品に影響を与えあった。これだけでは終わらない。

ジェイ・マキナニー、ブレット・イーストン・エリス、ジャネット・ウインタートン、タマ・

とした。

ひよわひよわひよわ。フルートのあと、ヘーイ、ミスタタンブランオーエ、ピリッペンオミ……。なんだこれ？ 歌詞カードをみていっそう混乱。「ねえ、タンバリンさん、うたっておくれよ……」なんだこれ？ 歌詞カードの先に「オー・シスター」というタイトルがあつて、すつとそこに目を引き寄せられたのは、こ、これがロックンロールなんか、と驚愕した。「おい、ねえちゃん、たのむからもう、俺のいやなこと、したらあかんよ。おい、ねえちゃん」。これって、ポイントって、おとうちゃんのもの

ジャノウイツツ。さらに、ドン・デリーロ、トマス・ピンチョンといった大御所まで、ボブ・ディランの声に恩恵をもらわなかったアメリカ文学の書き手はいない。寡作な彼らと違い、ボブ・ディランは現在も、年間二百本近いライブを毎晩こなす。文学だけではない、アメリカの大都市、港町、地方都市、ラジオの置かれた家々のポーチ、台所、寝室と、ディランの声が生活の時間を、アメリカの暮らしを縁取っていく。詩とは、紙に書かれたことばであるより先に、ひとびとの生きていく場所に「声」としてしみ通っていくもの。ノーベル財団はずつとそこを見ているんだらう。

そのような意味で、村上春樹がノーベル文学賞を受賞するというのは考えにくい。村上作品は国を、国に準ずる集団を束ねるのでなく、正反対に、弧の方向へばらばらに散逸さ

とちゃうんやでえ、と一緒や！ ディランつて、月亭可朝の一門か？

そのまま最後まででき、また最初の「ミスター・タンプリンマン」から最後までできなうおした。毎日、毎晩。ディランが歌っているのがなにか、いまだにわからない。ロックでもフォークでもブルースでもない。そうしたジャンルよりディランの声は大きい。地球をつつむあの空ぐらい。だから今日も、冬のすんだ青空をみあげた瞬間、アメリカ大陸までつづくディランの声に合わせ、「フォークヴァー・ヤング」なんかを口ずさむのだ。



アメリカ合衆国

面積: 371.8万平方マイル (962.8万平方キロメートル、50州+日本の約25倍)(内水面18.1万平方マイル)
人口: 3億875万人(2010年4月 米国内務局)
都: ワシントンD.C.
語: 主として英語(法律上の定めはない)
教: 信教の自由を憲法で保障、主にキリスト教

Profile

1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説『ぶらんこ乗り』『麦ふみクーツェ』『ポーの話』『みずうみ』『四とそれ以上の国』など、エッセイ『人生を救え!』(町田康共著)『熊にみえて熊じゃない』『遠い定の話』、絵本に『赤ずきん』(ほしよりこ絵)など多数。

